

報道関係者 各位

令和元年 12 月 19 日

日本橋公会堂で日々の研究成果を発表  
 第 19 回〈ゆうゆうの里〉職員実践研究発表会を開催  
 笑顔あふれる「元気付」ホームを目指して

介護付き有料老人ホーム〈ゆうゆうの里〉を全国 7 施設運営している日本老人福祉財団が令和 1 年 12 月 6 日（金）日本橋公会堂（東京都中央区）にて「第 19 回職員実践研究発表会」を開催しました。当日は、入居検討者、企業、他事業者、内定者を含め、総勢 207 名が参加しました。



【発表会の様子】



【座長及び優秀賞受賞者】

上段左 2 番目から長沼氏、青木理事長、田島氏、岸田氏

下段 優秀賞受賞の職員

上段左会場賞受賞の職員

### ◆概要

各施設の〈ゆうゆうの里〉で行われている研究活動をまとめ、施設ごとに発表会を開催し、その中から選出された、20 演題を 4 つの群に分けて発表しました。当日は、群ごとに座長を設け、それぞれ優秀賞を選出しました。

今回も介護部門、事務部門（経理・総務・入居者募集・施設維持）、食事部門、有料老人ホームに併設されている診療所まで多岐にわたる部門での研究発表がありました。

座長は、第 1 群 岸田宏司氏（和洋女子大学 学長）、第 2 群 田島誠一氏（合同会社 TKT 福祉経営研究所 代表）、第 3 群 長沼建一郎氏（法政大学 社会学部 教授）、第 4 群 山下興一郎氏（淑徳大学 総合福祉学部 社会福祉学科准教授）。それぞれの発表に対して講評を頂きました。

今後も研究活動を通じて、入居者へのサービス品質の向上を目指してまいります。

### ◆優秀賞受賞演題

第 1 群：赤ちゃん人形の活用～私たちみんなのアイドルとして～

大阪〈ゆうゆうの里〉 生活サービス課 佐藤 智久

概要

ときどき不穏になる入居者に対して、赤ちゃん人形を利用して落ち着いた生活を取り戻すきっかけをつくる取組み。

講評：岸田宏司氏（抜粋）

高齢になると、好むと好まざるに関わらず、色々なものを失っていく。過去の記憶や愛情の対象を失うことによる喪失感が、特に認知機能の衰えた高齢者に様々な影響を与えていると考えられる。「赤ちゃん人形」で認知機能の衰えた入居者の皆さんの心を動かす道具になり、結果として不穏な行動が抑えられた取組み。このテーマは問題がはっきりとあり、研究としてのプロセスがしっかり出来ていて、成果が出た興味深い内容になっていた。

## 第2群：浄化槽排水量削減について2～前回からの経過報告と次期の課題～

京都〈ゆうゆうの里〉 事務管理課 北村 昭夫

### 概要

2015年度に浄化槽の基準を超えた排水をしてしまったこときっかけに節水を始めた。継続して排水量を毎年減らすことに成功した取組み。

講評：田島誠一氏（抜粋）

継続して実践と研究に取り組んでいる姿勢を高く評価したい。節水でも3割位しか減らないのにも関わらず53%減は素晴らしい。資源を無駄に使わない、資源を大切にするというのもとても大切なことである。排水を少なくして、地球や地域にやさしい取組みをしている。

## 第3群：介護居室におけるトイレ仕様の研究～快適な介護居室空間の向上を目指して～

本部 サービス支援部 東 梨香

### 概要

伊豆高原施設の介護居室棟増築工事を機に、トイレについてハード面・ソフト面の両方から研究した。入居者・職員の双方にとってより良い設備を提供する為に工夫を凝らした取組み。

講評：長沼建一郎氏（抜粋）

建築、入居者、介護職員の立場の3つからみて取り組んだ研究。トイレでの転倒は、横浜地検の平成17年の有名な判決がある。以来、トイレでの転倒は、非常にクリティカルなテーマになっている。プライバシーを重視するか、それとも安全性を重視するかの選択は重要。方法を決めつけるのではなく、施設によって違うと結論づけているところも素晴らしい。

## 第4群：You're not alone～グリーンケアを通してみえてきた、生活支援担当としてできること～

京都〈ゆうゆうの里〉 生活サービス課 中川 リノ

### 概要

より良いグリーンケアを実践するために、自立期からの関係を作り情報をつかむことの重要性を研究した。〈ゆうゆうの里〉だからできるサポート方法に気づくことができた取組み。

講評：山下興一郎氏（抜粋）

節目節目の声かけで「あなただから話せる」と言ってもらえた取組み。入居者の情報範囲を広げた。対人援助職の基本であるが、過去・現在・未来の座標軸で生活ぶり・人生を見ることが出来るかが、対人援助者のひとつのテーマ。その人の基本情報を知るということは、いわゆる見立てができ、その人がどのように生きていきたいか、暮らしていきたいかということが共有できる。それがここでの情報の意味だと思う。

会場賞：仲間と共に働きやすい環境づくりを目指す～5S活動を実施し継続するためのノウハウとは？～

佐倉（ゆうゆうの里） 生活サービス課 田口 尚美

## 概要

働きやすい環境づくりを目指して、朝礼前の5分間を5S活動にあてた。結果として、職員の意識改善にも効果があり、職場体質の改善につながった。

講評：田島誠一氏（抜粋）

5S活動は今までどちらかと言えば、「綺麗になった」ところで終わっていた発表が多かった。サービスチェックには、構造・プロセス・結果・成果と4段階があるが、その成果まで出した発表。綺麗にするだけでなく、「協力しあえる人づくり」、「働きやすい環境づくり」という人間関係まで、取り組んでいた点がとても良かった。活動だけではなく、仕組み作りをした視点がとても素晴らしい。

## ◆招待発表

招待発表では、みずほ情報総研事業戦略部の渥美智之氏が「そっと見守る、最新テクノロジーを活用した未来の姿」と題して湯河原（ゆうゆうの里）で取り組んだ実証実験の様子を紹介。高齢者の行動データと位置情報を元にAIエンジンが高齢者の動作を類推してデータ化することにより、生活・行動のわずかな変化を可視化して把握できるかどうかを確認した。高齢者本人が生活・行動の変化に気付くほか、高齢者を支える施設職員や家族などが健康状態の保持・増進につながるアドバイスにも役立てることを目的とした取り組みを発表して頂きました。

また、日本老人福祉財団の姉妹法人である（社福）聖隷福祉事業団が運営業務受託している明日見らいふ南大沢の白岩藤香氏に「ICFの視点に基づいた『自分でやりたいこと』の実現に向けた支援の検討」と題して国際生活機能分類（ICF）の視点からICF整理チャートを使用し情報を分析。個人因子に着目してアセスメントを行い、本人らしい生活の実現を目指した研究を発表して頂きました。

## ◆日本老人福祉財団の概要

財団名：一般財団法人 日本老人福祉財団

理事長：青木 雅人

設立：1973（S48）年

事業：介護付き有料老人ホーム（ゆうゆうの里）を全国7か所（佐倉、湯河原、伊豆高原、浜松、京都、大阪、神戸）で運営。

特徴：1973年に設立された有料老人ホームの中では歴史が長い団体。自立の状態で入居して頂き、最期の時まで暮らせる住まい（終の棲家）を提供。1施設あたり平均300戸を超える大型施設の「高齢者コミュニティ」を展開している。

H P：<https://jscwo.jp/>

## I. 問い合わせ先

日本老人福祉財団 本部 サービス支援部 富田

T E L：03-3662-3611

E-mail：[tomita-ak@yuyunosato.or.jp](mailto:tomita-ak@yuyunosato.or.jp)